

二〇二二年 八月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

あやまちは 人間をきめない
あやまちはのあとが 人間をきめる

フツシユ孝子

「これはフツシユ孝子という方が書かれた「あやまち」という詩の一部です。人間誰しも失敗することはありません。時として、その失敗を他人に押し付けようとしていたり、言い訳をしたり、逃げ出したくなることもあるかも知れません。この詩では、失敗そのものより、失敗をしてしまった後がその人の真価を決めるのだと述べられています。

みなさんも私もこれから多くの失敗をすると思います。そのときに思い出したい詩ですね。「あやまちはのあとが人間をきめる」この言葉の通り、失敗をどのように受け止め、行動できるかしっかりと考え抜いていきたいですね。

今月の聖語

ひとつの言葉でけんかして ひとつの言葉で仲なおい
ひとつの言葉はそれぞれに ひとつの「ころ」をもつてゐる

吉野弘

言葉は、人を助けることや励ます一方で人を傷つけ悲しませることもあります。普段の学校生活では、クラスやクラブ活動などで多くの言葉が交わされ、そこで嬉しい気持ちになったり、不愉快な気持ちになったり、様々な事を感じながらみなさんも過「こして」と思います。

時には友達との間でけんかをする時もあると思います。けんかをしているときは相手に腹を立て、絶対に許したくない気持ちになります。が、「こめん」の一言で分かり合えることは確かにあります。「この詩で述べられているように、言葉には「こころ」があると思います。だからこそ言葉を通して伝わるものがあるのです。逆に上辺だけ飾ったような言葉では相手にはきつと届かないと思います。

言葉はもちろん大切ですが、その言葉を発している自分自身の「こころ」もしっかりと見つめてもらいたいと思います。

合掌

宗教教育係